

会 議 概 要

会議の名称	平成29年度第2次社会教育中期計画策定にかかる 第1回第3専門部会（芸術文化・博物館文化財・文化施設）会議
開催日時	平成29年8月25日（金） 午後6時30分～
開催場所	湧別町文化センターTOM 第3会議室
出席者名	部会委員～深谷部会長、金子委員、三品委員、安瀬委員 オブザーバー～宮澤委員長、石垣副委員長 社会教育課～星課長、根子補佐、土佐主任 ふるさと館JRY～田中館長、中島副館長、林主任
欠席者名	なし
傍聴人の数	なし
会議の内容	(1) 第2次社会教育中期計画第3専門部会 芸術文化・博物館文化財・文化施設分野の現状と課題について (2) その他
会議資料	会議議案
会議録	■ 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 ■ 要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無
備考	

結果要旨

【芸術・文化活動と文化施設整備の現状と課題】について
別紙のとおり

【文化財保護活動・博物館活動の現状と課題】について
別紙のとおり

○次回日程について

9月14日(水) 18:30～ 文化センターTOMにて

内容～芸術・文化活動と文化施設整備の現状と課題

文化財保護活動・博物館活動の現状と課題

○太字下線～今回変更箇所(素案から) ○取り消し線～今回削除箇所(素案から)

【芸術・文化活動と文化施設整備の現状と課題】について

- ・事務局よりスケジュールの確認、論点整理をした部分の説明をした後、討議を開始。
- ・ネット環境が進展し田舎でも情報発信は可能となったが、芸術文化には現場性がある。体験し呼吸を感じることができる。感受性を培うことが大切な役割。鑑賞事業の入場者数は低迷しており、習慣が定着していないが、町民芝居は孫が出ているとか町の歴史だと観に来てくれる。
- ・コミュニティスクールが始まり、地域と学校の連携について考え、開盛地区の神社や遺跡のことを教えられないかと考えた。自分で勉強しないといけないので、地域の資料があればいいなと思う。
- ふるさと館JRYにも参考となる資料があるので活用願いたい。
- ・地域の資料は、南兵村一区でも記念誌を作ったりしている。石碑の資料もある。訪ねれば道はあります。
- 図書館に参考となる郷土資料があるので活用願います。
- ・子どもが芸術文化にふれることも勉強、興味を持ってもらうことが大切。
- ・効率、便利さ、日本が目指した経済発展の弊害だと思う。日々の生活に芸術文化が取り入れられ豊かになれたか、つけを払わされている。ライブを楽しみ、すばらしい時間を過ごすこと、音楽や芸術は何にもかえ難い。子どもの頃から、ミュージカルや町民芝居に参加したり、観て、応援して、支えて、経験してもらおうこと、思いが入っていてほしい。
- ・芸術鑑賞は感受性を高める。面と向き合って感じるセンサーだと思う。
- ・常呂でも歴史を舞台にした。町民芝居の活動を大事にしていくべきと思う。それと、新しい指導要領では、プログラミングの学習が盛り込まれている。また、社会教育の分野で英語と向き合える事業も行なえると思う。
- ・ネットの情報は取りに行く情報。偏っているかもしれないし幅広い。芸術鑑賞事業に忙しくて観にいけませんが、町民芝居は誘われるので毎年観に行っている。
- ・昔は家庭にテレビが1台だったが、今はネットで興味のあるものを見ている。茶の間がなくなったと言われている。
- ・町民芝居はたくさんお客さんが観に来るが、鑑賞事業のお芝居は少ない。質が違う。
- ・芸術文化は幅が広い。ふれる機会を提供するという点では恵まれているといえる。
- ・鑑賞団体では、今回は誰を呼ぶというのは難しく苦労しているが、町民芝居の活動は地に足がついていると思う。歌のジャンルも幅が広いので、有名でないといけないので違和感を感じる時もある。
- ・わからないと勧める方も難しい。先日の東京プラススタイルは少なかったが良かった。吹奏楽部の生徒たちが楽しんでた。小泉潤弥君のライブは100%など表を見てドラマを感じた。
- ・素案の読み合わせ

芸術・文化は、人間が人間らしく生きるためのものであり、ともに心豊かに生きる社会を目指して、活気と個性あふれるまちづくりを構築するうえでも大きな役割を果たすものです。また、町民の文化活動に対する芸術性や専門性は 高い水準にあり 年々高まりを見せており、文化連盟や関係機関と連携を図りながら、町民のニーズに応える施策を展開し、心の糧となる芸術・文化活動の充実が望まれます。

- ・「町民の文化活動に対する芸術性や専門性は高い水準にあり」と変更されているが、元の「…専門性は年々高まりを見せており」の方が実態を表わしているのではないか。
- 元の文章に戻します。

幼児や小・中学生を対象とした芸術鑑賞会については、一定の評価を得た作品を継続的に実施しました。これからの時代は、益々創造的な産業の成長が見込まれることから、創造的な人材の育成のためにも、青少年が芸術文化に触れる機会の充実が求められています。また、一般向けの芸術鑑賞会開催に加え、町民が主体的に芸術鑑賞の企画運営に取り組める「芸術文化奨励事業」を実施し、幅広いニーズに応える体制を継続してきました。しかし、一般向けの主催事業、芸術文化奨励事業ともに、出演者の知名度に観客数が左右される傾向があり、全体として集客力は低迷しています。

- ・産業からというよりは「これからの時代は、コンピューターやロボットに置き換えられない」人材育成としてはどうか。
- ・修正反対で、職人がどんどんいなくなって、仕事が変わっていく社会が目の前に来ている。だから芸術文化・体験が必要にかかっているのではないか。
- ・これまで社会産業に合った人間を作ってきたが、創造産業には対応できない、求めている人間と違ったということで、産業のために人間を作るのではない。
- ・「多様な時代を生きていく、創造的な人材の育成・・・」としてはどうか。
- ・成長産業の見込みがあるから、人材育成のため文化にふれる文で問題ないと思う。
- ・社会の要求からというニュアンスが嫌だ。
- ・芸術文化の推進は人間の根本の問題だと思う。
- ・それなら、この文を全部取っ払うべきだと思う。今結論は出ないので、次回までに各々考えてきてはどうか。

⇒□部分は次回検討することとした。

また、演奏の技術指導やミュージカル等の体験事業といった育成事業には、その参加者に新たな技術と感動を与えることができました。鑑賞事業ばかりではなく育成事業においても充実を図り、鑑賞と創造が両輪となって、地域の文化を活性化していくための環境作りが求められています。

文化連盟については、両地区の文化協会ごとに総合文化祭等を行なっていますが、今後は相互の交流を図りながら文化連盟の自主的な組織活動・事業が充実することが望まれています。

町の合併により文化センターが2館となり、各々文化活動の拠点として芸術文化団体・サークル等が例会・練習の場として主に使用しています。両文化センターは、建設後20年以上が経過し、経年劣化した設備の更新を進めることはもちろん、ホールの特徴を活かした住み分けも考えていく必要があります。

- ・ミュージカル体験は良い事業だと思う。
- ・町民芝居の活動は本文に記載しなくてもよいか。
- ・文化連盟に入って活動しているので、特に記載の必要はないと思う。

<今後の課題>

- 鑑賞と創造が両輪となった芸術文化活動を推進し、町民が感動にふれる機会を提供することが必要です。
- 芸術文化の持つ創造性を活かし、青少年が芸術文化に触れる機会の充実が必要です。
- 鑑賞事業で多くの人に足を運んでもらう工夫・きっかけ作りが必要です。
- 町民のニーズに合ったカルチャー教室を実施し、芸術文化に携わる人の裾野を広げる必要があります。
- 文化連盟を始め、各種文化団体の活動支援が必要です。
- 文化センターの計画的な設備の更新が必要です。
- 文化センターさざ波、TOMそれぞれの特徴を生かした施設活用が必要です。

- ・変更点特になし

【文化財保護活動・博物館活動の現状と課題】について

文化財では、天然記念物として昭和 32 年佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落、埋蔵文化財では昭和 42 年シブノツナイ堅穴住居群跡がそれぞれ北海道の文化財に指定され、現在に至るまで大切に保護されてきました。埋蔵文化財は他に北海道を代表する湧別市川遺跡をはじめ所在が確認されている包蔵地は 56 か所もあります。

博物館活動は、郷土館において地域の特徴である考古資料を中心に湧別地区のあゆみを展示しています。郷土館ボランティアが教育普及活動に協力しています。上湧別地区には一世紀に渡って継承されてきた湧別屯田の資料等の開拓の記録があり、ふるさと館 J R Y でそれらは保存展示され、明治開拓期の「衣食住」の体験などの教育普及活動が行われてきました。

文化財保護活動・博物館活動の基本は文化財と資料の保存にあります。これらを将来へと確実に継承する保護計画を立案実行することが最大の課題と考えます。

埋蔵文化財はこれまでと同様に開発行為による破壊を防いでいかなければなりません。そして、保護だけではなく分析調査をし、教育普及活動へつなげていくことも求められます。特にシブノツナイ堅穴住居群跡は道教委による再調査が 3 カ年行われ、今後も調査分析の継続が町に求められています。

博物館・収蔵庫にある資料はこれから情勢の変化とは関係なく安定的に保存されていく環境を構築しなければなりません。

保護に加えて、文化財、博物館資料を町民に広く知ってもらい、その存在意義を考えてもらう機会を提供していくことも重要な役割です。そのための方策を考えることも重要な課題です。

- ・次の世代に引き継げる町の歴史について、学芸員に丸投げで恥ずかしい。学ぶ会のバスツアーなどで、資料作成などいつもお世話になっている。
 - ・2 段落目「上湧別地区には…」とあるが、湧別地区のことも考え「特に」をいれてはどうか。
 - ・前段に湧別地区の郷土館のことが記載されているので不要。
- J R Y と郷土館で住み分けをしている。
- ・資料保存について、予算のことも念頭に「情勢の変化とは関係なく」という文を加えた。
 - ・お宝の旅で郷土館を訪問し、昔と違ってきちんと整理展示されていた。
- 少し予算もいただき、林学芸員も行く機会を増やし現在に至ります。

〈今後の課題〉

- ・文化財保護活動
 - 埋蔵文化財保護のため所在地の明確化と土木工事等による破壊を防ぐ必要があります。
 - シブノツナイ堅穴住居群等の包蔵地の調査が必要であります。
 - 発掘資料の整理・分析が必要であります。
 - 天然記念物保護の適正な各種事務手続きを努めます。
- ・博物館活動
 - 新しい収蔵庫の建設の必要があります。
 - 資料の安定的な保存環境を構築する必要があります。
 - とくに次世代を担う子供たちへの博物館利用機会を増やす必要があります。
 - 博物館の運営の方針を決める必要があります。

- ・前回「新しい町としての博物館の運営方針を決める必要」があるのはわかるが、新しい町をとっただけだと、5 年たっても運営の方針は決まっていない印象を受けるのではないか。
- 次回までに言い回しを考えます。

20 : 30 閉会

平成29年度

第2次湧別町社会教育中期計画策定にかかる
第1回 第3専門部会（芸術文化・博物館文化財・文化施設） 会議

と き 平成29年 8月25日（金）
午後6時30分～

ところ 文化センターTOM 第3会議室

<会議日程>

1. 開 会

2. 部会長あいさつ

3. 議 題

○第2次社会教育中期計画専門部会

芸術文化・博物館文化財・文化施設分野の現状と課題について

4. その他

○次回日程の確認

5. 部会長あいさつ

6. 閉 会

<第3専門部会構成員>

部会長 深谷 聡

部 員 金子徳郎、三品博恵、安瀬 勇

委員長 宮澤 道 副委員長 石垣誠一

事務局 星 義孝、根子敏男、土佐信太郎

田中 仁、中島一之、林 勇介

第6節 芸術・文化活動と文化施設整備の現状と課題・推進目標・推進項目

【芸術・文化活動と文化施設整備の現状と課題】

芸術・文化は、人間が人間らしく生きるためのものであり、ともに心豊かに生きる社会を目指して、活気と個性あふれるまちづくりを構築するうえでも大きな役割を果たすものです。また、町民の文化活動に対する芸術性や専門性は高い水準にあり、文化連盟や関係機関と連携を図りながら、町民のニーズに応える施策を展開し、心の糧となる芸術・文化活動の充実が望まれます。

幼児や小・中学生を対象とした芸術鑑賞会については、一定の評価を得た作品を継続的に実施しました。これからの時代は、益々創造的な産業の成長が見込まれることから、創造的な人材の育成のためにも、青少年が芸術文化に触れる機会の充実が求められています。また、一般向けの芸術鑑賞会開催に加え、町民が主体的に芸術鑑賞の企画運営に取り組める「芸術文化奨励事業」を実施し、幅広いニーズに応える体制を継続してきました。しかし、一般向けの主催事業、芸術文化奨励事業ともに、出演者の知名度に観客数が左右される傾向があり、全体として集客力は低迷しています。

また、演奏の技術指導やミュージカル等の体験事業といった育成事業には、その参加者に新たな技術と感動を与えることができました。鑑賞事業ばかりではなく育成事業においても充実を図り、鑑賞と創造が両輪となって、地域の文化を活性化していくための環境作りが求められています。

文化連盟については、両地区の文化協会ごとに総合文化祭等を行なっていますが、今後は相互の交流を図りながら文化連盟の自主的な組織活動・事業が充実することが望まれています。

町の合併により文化センターが2館となり、各館とも3万人…各々文化活動の拠点として芸術文化団体・サークル等が例会・練習の場として主に使用しています。両文化センターは、建設後20年以上が経過し、経年劣化した設備の更新を進めることはもちろん、ホールの特徴を活かした住み分けも考えていく必要があります。

段落移動

<今後の課題>

- 鑑賞と創造が両輪となった芸術文化活動を推進し、町民が感動にふれる機会を提供することが必要です。
- 芸術文化の持つ創造性を活かし、青少年が芸術文化に触れる機会の充実が必要です。
- 鑑賞事業で多くの人に足を運んでもらう工夫・きっかけ作りが必要です。
- 町民のニーズに合ったカルチャー教室を実施し、芸術文化に携わる人の裾野を広げる必要があります。
- 文化連盟を始め、各種文化団体の活動支援が必要です。
- 文化センターの計画的な設備の更新が必要です。
- 文化センターさざ波、TOMそれぞれの特徴を生かした施設活用が必要です。
- 文化団体の活動支援により、文化センターの利用促進を図ることが必要です。

文化財保護活動・博物館活動の現状と課題

文化財では、天然記念物として昭和32年佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落、埋蔵文化財では昭和42年シブノツナイ竪穴住居群跡がそれぞれ北海道の文化財に指定され、現在に至るまで大切に保護されてきました。埋蔵文化財は他に北海道を代表する湧別市川遺跡をはじめ所在が確認されている包蔵地は56か所もあります。

博物館活動は、郷土館において地域の特徴である考古資料を中心に湧別地区のあゆみを展示しています。郷土館ボランティアが教育普及活動に協力しています。上湧別地区には一世紀に渡って継承されてきた湧別屯田の資料等の開拓の記録があり、ふるさと館JRYでそれらは保存展示され、明治開拓期の「衣食住」の体験などの教育普及活動が行われてきました。

文化財保護活動・博物館活動の基本は文化財と資料の保存にあります。これらを将来へと確実に継承する保護計画を立案実行することが最大の課題と考えます。

埋蔵文化財はこれまでと同様に開発行為による破壊を防いでいかなければなりません。そして、保護だけではなく分析調査をし、教育普及活動へつなげていくことも求められます。特にシブノツナイ竪穴住居群跡は道教委による再調査が3カ年行われ、今後も調査分析の継続が町に求められています。

博物館・収蔵庫にある資料はこれから情勢の変化とは関係なく安定的に保存されていく環境を構築しなければなりません。

保護に加えて、文化財、博物館資料を町民に広く知ってもらい、その存在意義を考えてもらう機会を提供していくことも重要な役割です。そのための方策を考えることも重要な課題です。

〈今後の課題〉

・文化財保護活動

○埋蔵文化財保護のため所在地の明確化と土木工事等による破壊を防ぐ必要があります

○ シブノツナイ竪穴住居群等の包蔵地の調査が必要であります。

○ 発掘資料の整理・分析が必要であります。

○天然記念物保護と周辺環境の維持のための基礎情報収集が必要でありますの適正な各種事務手続きを努めます。

・博物館活動

○新しい収蔵庫の建設の必要があります

○資料の安定的な保存環境を構築する必要があります。

○~~町の姿がわかる情報を発信する機能が必要であります~~

○とくに次世代を担う子供たちへの博物館利用機会を増やす必要があります

○新しい町としての博物館の運営の方針を決める必要があります